

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科 昼間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生涯発達心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 火曜1, 2限	教室名	4校舎401
担 当 教 員	東 美 苗 子	実務経験とその関連資格	臨床心理士・公認心理師・保健師・看護師。小中学のスクールカウンセラーとしての経験、産業保健師、訪問看護師としての経験など。			
《授業科目における学習内容》						
生まれてから死を迎えるまで、人の人生における各時期の心理発達の特徴や生じうる問題を理解し、日常・臨床場面で活用できる知識を身につける。各発達段階で生じやすい心理的/社会的課題について学び、問題を多面的に捉える姿勢を養う。また発達心理学に基づいた実践例を学び、自身の専門実践に生かす。さらに問題演習を通じて、国家試験への対応力を養う。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
使用教材:「完全カラー図解 よくわかる発達心理学」渡辺弥生 ナツメ社 参考図書:「対人援助職のための発達心理学」渡辺弥生、藤枝静暁、藤原健志 北樹出版 「発達と臨床の心理学」 渡辺弥生、榎本淳子 ナカニシヤ出版 「スタンダード発達心理学」松井 豊 櫻井 茂男 佐藤 有耕 サイエンス社						
《授業外における学習方法》						
授業前に使用教材等で、予習をしていただくと講義がより理解しやすくなると思います。理解と定着のために配布資料や使用教材を基に授業後に復習してください。生涯発達心理の視点を自身の日常や専門に反映させて考えてください。						
《履修に当たっての留意点》						
発達心理学の視点を自分自身の経験に照らし合わせることで、発達心理学の面白さ、身近さを体感していただければ幸いです。国家試験の1科目ですが、人生の教養科目としてぜひ積極的に学んでいただければと思います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発達心理学、生涯発達心理学の視点・考え方について説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第1章により予習・復習	
		各コマにおける授業予定	①オリエンテーション ②発達心理学とは何か ③生涯発達心理学の考え方 ④発達段階の区分について学習する。			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発達の規定要因(遺伝と環境)と、各要因の特徴を説明できる。また発達の研究がどのように行われるのかを説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第1章により予習・復習	
		各コマにおける授業予定	①発達の規定要因(遺伝と環境、輻輳説や相互作用説等) ②発達心理学研究法(縦断研究、横断研究、研究法)を学習する。			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発達に関する諸理論について理解し、それを基に発達について説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第1章、第2章以降の対応により予習・復習	
		各コマにおける授業予定	①初期体験、②フロイトの発達理論 ③ヴィゴツキー「発達の最近接領域」			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	エリクソン心理社会的発達理論について日常と照らし合わせながら考え、説明することができる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第1章、第2章以降の対応により予習・復習	
		各コマにおける授業予定	エリクソン心理社会的発達理論概説			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	知的、認知発達についての理解。ピアジェの理論、子どもの世界のとらえ方を知り、説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第1章、第2章以降の対応により予習・復習	
		各コマにおける授業予定	ピアジェの認知発達理論について理解			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児期の発達(1) 胎児期と周産期の発達を説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第2～3章により予習・復習
		各コマにおける授業予定	①胎児期と周産期の発達概要 ②感覚・運動の発達 ③知性・言語発達		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児期の発達(2) 乳幼児期の発達を説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第3章により予習・復習
		各コマにおける授業予定	①社会性の発達 ②愛着理論 ③児童虐待		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児期の発達(3) 乳幼児期の発達を説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第3章により予習・復習
		各コマにおける授業予定	①乳児期の発達について(自己・感情・遊び)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	児童期の発達を説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびに「スタンダード発達心理学」第5～6章により予習・復習
		各コマにおける授業予定	①児童期の発達の特徴と心理的問題		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	思春期・青年期の発達を説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第5章により予習・復習
		各コマにおける授業予定	①思春期・青年期の身体的・認知的発達、②親子・友人関係、③アイデンティティ、青年期の拡大について学習する。		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	成人期の発達を説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第6章により予習・復習
		各コマにおける授業予定	①仕事と家庭、②ライフサイクルにおける成人期、③中年期危機と成人期アイデンティティについて学習する。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	老年期の発達を説明できる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト第6章により予習・復習
		各コマにおける授業予定	①老年期の認知/身体的な変化、②老年期をめぐる諸問題、③老年期と死について学習する。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発達心理学を応用した実践例を学び、自身の実践に生かす	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキストにより予習・復習
		各コマにおける授業予定	気になる子供と家庭の支援 発達障害(ASD、ADHD、LD)、児童虐待		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発達心理学を応用した実践例を学び、自身の実践に生かすことができる。	PC プロジェクター マイク	配布資料ならびにテキスト指定箇所により予習・復習
		各コマにおける授業予定	①子育てと発達心理学 ②教育分野における発達心理学		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	総括。14回の講義の復習を行い、生涯発達心理学の全体像について説明できる。	PC プロジェクター マイク	今までの講義内容の復習
		各コマにおける授業予定	14回の講義の復習・総括を行い、生涯発達心理学の全体像について学習する。		